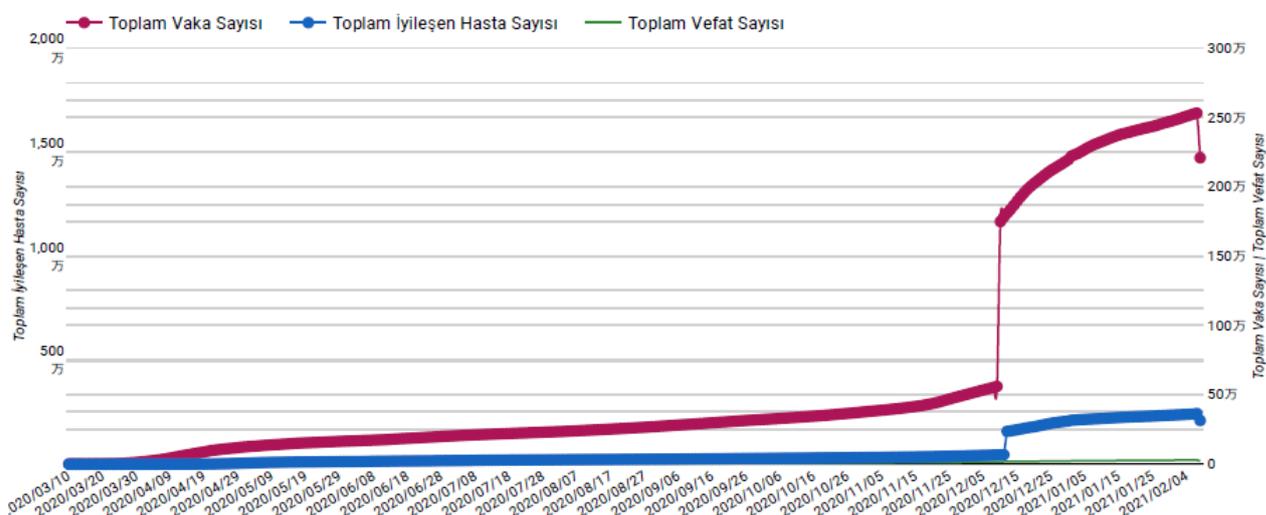


トルコの新型コロナウイルス感染症の状況（11）

トルコでは2020年3月10日に初めての新型コロナウイルス感染症の症例の報告があり、4月1日には全国的な感染拡大が確認され、以降、通常の経済活動を極力動かしながら、週末の外出規制、県外移動の原則禁止等により感染拡大防止に努めた。5月には一旦収束傾向がみられたため、6月以降は経済活動、7～8月にかけては国内外への移動、国外からの渡航者の受け入れ等の制限や結婚式等の開催を解禁するなど人々の行動制限を大幅に緩和した。しかし再び感染状況が悪化したため、10月以降は大規模な集会の禁止、11月に子どもと高齢者の外出再規制、12月には週末の外出規制や飲食店の営業制限（テイクアウトとデリバリーのみ）を再度行う等、厳しい感染対策に逆戻りした。2021年2月7日現在、感染者数累計2,531,406人（6,670人/日、発症者数623人）、重症者1,317人、快復者数累計2,440,706人（8,211人/日）、死者22,2645人（194人/日）、検査数累計25,681,213件（183,003件/日）で、1日当たりの感染者数、発症者数等は1月初旬と比較すると半減し減少傾向にあるが、2月3日にはトルコでも英国、南アフリカの新型コロナ変異株が発見されたこともあり、引き続き慎重に対応している。2月1日時点で感染者は世界で8番目に、死者は18番目に多く、高止まりの状況が続いている。

トルコはワクチン接種に積極的に取り組んでおり、最初の中国産ワクチン「シノバック」が2月1日に到着し、2月13日に早くも接種が開始した。ワクチン接種1人目はコジャ保健相で、その様子はテレビ等のメディアで中継され、新型コロナ諮問委員会メンバーもそれに続いた。翌日にはエルドアン大統領が接種し、以降、医療従事者、65歳以上の高齢者に対して優先的に接種を行い、2月4日には250万人の接種が完了したと報じられた。保健省HP内のワクチン接種状況特設サイト（<https://covid19asi.saglik.gov.tr/>）ではワクチン接種の状況、方法、副反応等についての情報を掲載するなど、国民のワクチン接種に対する理解の促進にも努めている。

トルコでは現在、国産ワクチンの開発を進めているほか、ロシア産ワクチンの国内生産での合意、米ファイザー社製ワクチン（開発者はドイツのトルコ系移民）からの供給も交渉している。国民の75%が1人当たり2回のワクチン接種を済ませることを正常化の目安とした、ブルームバーグが構築したデータベースによると、トルコの正常化はワクチン接種が進んでいるイスラエル、英、米よりは時間がかかるが、3年以上と見込まれている他の欧州諸国の中では比較的早期の約2年半後に正常化するとの予想が出ている。



(<https://covid19.tubitak.gov.tr/>より。

* 12/10 以降は陽性者集計方法を無症状者を含むものに変更)